

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

保育園番号	66-1035
園名	さんい保育園有明

1. 活動のテーマ

<テーマ>

ジャガイモとさつまいもを掘ってみよう！

<テーマの設定理由>

これまでのストーリーに出てきている絵本のヒーロー「いもほりセブン」からの手紙が来たことから、本日の活動内容を決める。

いもほりセブンからの手紙には、みんなで植えたジャガイモの中が気になる事が書いてあった。その事から、テラスでジャガイモ掘りがスタートする。

2. 活動スケジュール

- 誰かが、保育者が設定した「手紙を見つける」といった予測設定。
- 3, 4, 5歳児が合同で朝の会を行う。
- 朝の会の時に、みんなでいもほりセブンからの手紙を読んでもみる。
- いもほりセブンからの手紙の内容通りにテラスで芋ほりの設定をしてやってみようとする。
- クラス別でジャガイモ、さつまいもの袋を掘ってみる。
- 5歳(はと組)はジャガイモ、さつまいも掘りの後に振り替わりをしてみる。

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定。
- ・活動中の子どもの姿・声や子ども同士・保育士との関わり。

○活動内容をするに当たって、どうやって芋を掘ったらいいの?と質問があった。保育者は、すぐにやり方を伝えずにいた。

→子ども達の姿は、特に5歳児は土いじりに慣れていないようで経験が少なかったこともあり、土を直接触りたくないようであった。弦を引っ張り上げて出てきた芋を見つけ、其の芋をつかんだまま掘ろうとしていた。しばらくして、保育者もアドバイスなどヒントになる話をした。

○3,4歳は手で掘り始めると、小さい芋も可愛い!と言いながら、「もっと奥にあるはずだ!」と探求心が芽生えたり、「ようちゅういないかな?」等の期待もしていた。

○5歳(はと組)の反応が薄いようであったと感じた保育者が、帰りの会の最中に話を聞いてみた。実際に、さつまいもの成長が足りなかったことなどを感じていた為、そのようなことから芋ほり遠足で行った経験と本日感じたことを学びとして比較して考えてみた。

【感想】

① まるファームでの芋ほりと、②保育園のテラスでの芋ほりを比較してみる。

① に対して

- ・太陽が沢山あった。
- ・葉っぱが大きかった。
- ・水が一杯!
- ・肥料
- ・幼虫がいなかった。
- ・一階(地面)で、土がいっぱい!
- ・畑の広さ。
- ・幼虫じゃない虫が沢山!

② に対して

- ・屋根があるから、太陽や光が少ない。
- ・水・肥料が少なかった?
- ・お芋とおいもが仲良しに、近くに植えてあげればよかった。
- ・葉っぱ、小さかった。
- ・幼虫がいた。
- ・幼虫が食べちゃったかも?
- ・2階。(テラス)
- ・プランターは狭い。
- ・水をあげすぎたかも。

の違いを感じていた。

など、今回保育園の収穫が不作であったことから、何でだろう?こうしたらよかったのかな?と、色んな角度からの意見があったことで栽培の難しさを感じた。今回経験が学びになったと感じた。



4. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

自園でも食育の一環でテラスで栽培活動をしているが、折角お世話をしたり期待をもって活動しているが、中々立派なものが育たない事が多い。その中、すくわくプロジェクトで、農家さんが育てて下さった大きなさつまいもを必死になって掘れた経験は、とても心の残る体験になったと感じた。実際に自園が育てたものは、植える時期も遅かったせいもあり、育てなかったことの対して保育者の経験不足などの反省もある。子ども達は今回のこと（不作であった）を比較して、当たり前食べている食材も、大変な思いで育てている人がいることや、食べ物を大事にする事の感謝に繋がると良いと感じた。